

国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP) 第 5 回ワークショップ開催

2021 年 2 月 18 日、国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP) の第 5 回ワークショップがオンラインで開催され、24 大学から 49 名の代表者および関係者が出席しました。今回は、イェール大学サステナビリティセンター副所長のメリッサ・ゴッダール博士をお招きし、米国で最も古くからサステナビリティ活動を展開している当センターの取り組みを中心に講演していただきました。

ゴッダール博士の講演は、高等教育において、何故サステナビリティの考え方が必要であり、有用であるか、という問いかけから始まりました。まず、大学という機関は、多くの専門家が集まり、新しい発見のためのあらゆる試行錯誤を含む活動が可能で、中立性を保つことができるという点が強調されました。また、学ぶことへのパッションと知的好奇心にあふれた次世代の教育を担っているという点からも、ビジネスと異なった視点でサステナビリティに貢献できる活動を促進することができる旨と指摘しました。ゴッダール氏は、我々は学生に“教えている”のではない、新鮮なアイデアで問題を解決しようとしている学生達が、求められているスキルと能力を身につけるための手助けをしているのだと述べました。そして、これらの活動を通じて、若い世代がいずれ社会にでて世界を変えるチェンジメーカーとなる可能性があることと実感できる機会を与えるのも、大学の大きな役割であると強調しました。

次に、イェール大学のサステナビリティの歴史を振り返りました。イェール大学は、2005 年にサステナビリティセンターを設置、2010 年に最初の 3 年計画を策定・実施し、2013 年には二度目の 3 年計画が作られました。ところがビジネス界を含めた外部評価委員より指摘が相次ぎ、18 ヶ月をかけ念入りに見直しを行いました。学生、教職員、同窓生をメンバーとしたフォーカスグループの結成、地域コミュニティを含めた多様なステークホルダーとの意見交換、そして専門家を招いたワークショップでの議論などを経て、運営委員会にて策定したプランを学長に提案しました。他大学からのレビューも参考に最終化をはかり、2016 年に「イェールサステナビリティプラン 2025」が完成しました。

本計画は、1 つの Vision、9 項目の Ambitions (取り組みの方向性)、20 の目標、38 のゴールで構成されています。Vision では、サステナビリティの理念が大学の教育・研究、運営に円滑に統合され、社会、環境、財務的な卓越性に貢献し、地域と世界のリーダーを目指すことをあげています。Ambitions には、リーダーシップ、エンパワーメント、健康と福祉、気候に関する取り組み、スチュワードシップ (物理的、人的な資源管理)、モビリティ (通勤)、マテリアル (材料)、テクノロジー、という 9 つの項目が挙げられ、これらは 20 の目標により補完され、さらに測定可能な 38 のゴールで支えられています。この計

画では、イェールコミュニティを形成している、学生、教職員、同窓生など様々なグループに、統一されたプラットフォームを提供することで、それぞれの専門を活かしたサステイナビリティの取り組みを支援できるようにしたものです。現在、イェール大学の多くの学部や大学院研究科が、サステイナビリティの目標に向かってそれぞれ独自の活動計画を作成し実際の課題解決に取り組んでいます。

さらに、ゴッダール氏は、イェール大学のグローバルな取り組みを紹介しました。イェール大学は「国際研究型大学連合、International Alliance Research University (IARU)」の一員であり、IARU の協働事業の一環として作成した「大学におけるグリーンガイド」（英語、スペイン語、中国語、日本語）に言及しました。また、IARU が主催し、44 か国の 135 チームから成る約 600 人の学生が参加し環境および気候変動の課題と取り組む Global University Climate Forum についても紹介しました。ゴッダール氏は、将来の若いリーダー達が、インスピレーションを与えあいネットワークを広げる活動を通して、高等教育の役割をさらに高めていけるように願っていると強調し、講演を終えました。

後半は、グループ討議が行われました。テーマとして、1) 横断的な学部を超えた SDGs の教科をどのような形で実施すべきか、2) 学生、事務職員、教員が共同して実施する SDGs 事業の可能性、3) SDGs 実施における特別基金の必要性、4) 学内の SDGs 実施における評価制度の必要性と課題について、という 4 つの項目があげられ、様々な意見が交わされました。

最後に、村田俊一関西学院大学総合政策部教授 (SDG-UP アドバイザー) は、一朝一夕では実施できない Yale Sustainability Plan を計画・遂行する中で、特に、イェール大学の「クリティカル・マス」をどのように形成し動かしてきたのか、そのプロセスを知ることが重要であるとコメントしました。また、大学におけるサステイナビリティ促進のための研究・教育、社会貢献のための環境をより良く整備するためには、事務職員の下支えが必要不可欠であることから、大学のリーダーが事務職員を巻き込んで企画の段階から力を発揮してもらうことが大変重要であると強調しました。また、現代社会は問題が多様化し複雑多岐にわたっているため、その問題解決のアプローチとして、SDGs の基本となる 4 つのコンセプト「社会、経済、環境、ガバナンス」をカリキュラムに効果的に組み込むことが必要であると指摘しました。その上で、現実の問題に対応するために、専門性と学際性を統合し、社会のニーズに対応した大学教育を考えなければならないと述べました。教職員である我々は、次世代の人材育成に携わる中で、どの様に SDGs を活かして行くのかを議論し、教職員とリーダーシップが共に改革をすすめていかなければならない点を強調し、ワークショップを締めくくりました。

参加大学 24 校（アルファベット順）

愛媛大学

広島大学

北海道大学

国際基督教大学

国際大学

慶應義塾大学

関西学院大学

北九州市立大学

九州大学

九州産業大学

ノートルダム清心女子大学

奈良教育大学

大阪大学

大阪医科薬科大学

龍谷大学

創価大学

上智大学

東海大学

東京都市大学

東京工業大学

東京理科大学

東洋大学

筑波大学

東京大学